

わからないということに

まちづくりのヒントがある



minoru hatanaka

経営者として、2児の父親として、現在は次世代育成支援対策推進会議委員としてふるさと苫小牧のまちづくりへ積極的に参加している畑中稔さんにインタビューしました。

参加のきっかけは

自分が子育て真っ最中のとき、偶然目に入ったのが「次世代育成支援対策推進会議委員」の募集。子育てについてわからないことも多く、困ったり悩んだりした経験を生かしたいと思っていました。また、子育てを含む福祉分野について学びたいと思い、審議会に参加させていただきました。このまちで子どもを産み育てたいと思えるようにするにはどうしたらよいのだろう。そのことを考えながら審議会委員として参加させていただいています。

参加する意義・思い

まちづくりに審議会委員として参加できて、本当に楽しいです。普通に仕事をしていたら接することのない方と意見交換し、自分にはない視点に気づくことで視野が広がり、人生勉強になって

ます。

参加するときには気を付けていることは、何度審議会委員を経験しても、馴れすぎずに、「わからない」という立場から発言し続けることです。それが一番市民に近い感覚だと思うからです。自分の仕事でも、お客様の意見の中に一番のヒントが隠されています。まちづくりも一緒だと感じています。市民の一人として自分の素直な思いを大切にしていきたいです。

これから参加する方へ

どの審議会でも、私は最年少になります。親世代の方が多く中、若い人たちの感覚が求められていることを感じています。日々の忙しい生活の中で大変ではありますが、多くの方、特に若い方に積極的に参加して欲しいと思います。私はたまたま審議会に参加していますが、今、まちづくりボックスとか、パブリックコメントとか、色んな方法でまちづくりに参加できますよね。自分に合った方法で参加して、一人でも多くの方の意見から議論を重ねていけば、苫小牧ならではの独自性のあるもっと住みやすいまちづくりができるのではと思います。

市民自治とは

今年の4月から、市民自治推進課で市民参加によるまちづくりについて担当させていただいています。市民自治って何だろう。考えると、本当に難しい問題ですよ。

このまちに住むみなさんが、まちづくりの主体となって一歩を踏み出していくこと、一人ひとりの実践を確実に積み重ねていくことが、未来の苫小牧を形作るのだと思います。

畑中さんの様に、「子育て中であるから次世代育成支援対策推進会議に参加してみよう。自分が体験した思いを伝えてみよう」といったことが、未来のまちづくりにつながっていくのではないかと思います。

参加への思い

「市民参加が大切です」と言うことは簡単なのですが、実践するのは本当

に大変です。仕事や子育て、家族団らんや自分の時間も必要ですし、毎日が忙しいことと思います。市民参加の集まりと、家でビールを飲みながらの野球中継の選択だったら、本当に悩ましいですよ。だから、少しずつ、自分が無理なくできそうな範囲から始めることが大切だと思います。「今日は野球中継もあるけれど、自分の地域のことだから、たまには説明会に行ってみようかな」そんな感覚でいいと思います。8月からは各地域でまちかどミーティングが始まります。今、重要な案件や地域に根ざした問題について、時間を作ってぜひ参加していたければと思います。

これからの取り組み

今回の特集では、意見を出したり参加したりするためのツールを一覧にしました。今は参加できなくても、実際に参加したときに、どのような方法があるのかを知っていただくことが大切だと考えたからです。

みなさんがもっと参加しやすいような制度の設計や情報の発信が求められている時代です。市民であることが誇りに思えるまち「苫小牧」を築くために、みなさんとともにこれからも市民自治によるまちづくりに取り組みたいと思います。

中 村 圭 吾



keigo nakamura

市民自治によるまちづくりを、市民参加をはじめとする仕組みづくりからすすめている市民自治推進課 中村圭吾 主査にインタビューしました。

無理なくできることから

新たな一歩を踏み出す